別添1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成29年1月11日

協議会名：安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
南安タクシー有限会社 安曇観光タクシー株式会社 明科第一交通株式会社 株式会社バイタル	「あづみん」区域運行 地域間幹線系統路線に接続するデマンド交通を9系統運行する 車両減価償却費等国庫補助金を活用し、車両を2台購入し「あづみん」の運行に使用した	前年度に実施した未利用者・1回利用者アンケートの内容を協議会において報告し課題の共有を図った。 また、平成28年度から運行体系の見直しに着手しており、これらの意見を反映できるよう検討を進めている。	A	計画どおり運行できた。	B	NW計画での目標値は「1日平均利用者数：420人、年間利用者数：　102,060人」であるが、雪による交通障害の影響もあり、実績としては「1日平均利用者数：351.9人、年間利用者数：85,513人」であった。なお、昨年度は「1日平均利用者数：368.5人、年間利用者数：89,187人」であった。	平成28年度から運行体系の見直しに向けた検討を開始し、課題の抽出を行った。今後はこれらの課題に対して、具体的な見直しについて検討を進めたい。 また、今後地域公共交通網形成計画の策定を予定しているため、利用実態調査及び未利用者の需要を把握し運行体系の改善につなげていきたい。 併せて利用者数が年々減少傾向にあるため、網形成計画の策定過程で原因の分析を行いたい。

別添１－２

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年1月11日

協議会名：	安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	安曇野市は長野県中央部西側に位置し、人口は約９万８千人、面積は約332km²で、平成17年10月に5町村が対等合併し誕生した市である。北アルプスの山岳地帯と山間部、及び平たん部から構成されている。特に山間部などの中山間地で高齢化が進んでいる。 当協議会では安曇野市内の居住地域内でデマンド運行を行っている。利用者の大半が高齢者及び障がい者であることからもわかるとおり、交通弱者の足として定着している。また運行開始から9年が経過し、利用者も更に高齢化が進んでおり、一方で障がい者の利用が増え続けている。 高齢者の住居は中山間地など道路が狭隘である区域が多く、また、乗降に時間が掛かるため１運行で多くの人に乗車いただくことが難しくなっている。一方、障がい者には料金割引があり、このことが利用料金収入の減少につながっている。これらのことから、「あづみん」の維持費用の財源の内、運賃収入の増加は多くは見込めないと言える。その状況の中で、運行に関する国庫補助金である当補助事業は、重要な財源であり交通弱者の足を守る点で、必要なものとなっている。 必要な財源を確保しつつ、上述のデマンド交通「あづみん」と、その運行前の時間帯に異なる路線のJRの駅と駅を結ぶ通勤・通学者を対象とした定時定路線の組み合わせなどにより、生活交通ネットワーク構築を図っているところである。

別添1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成29年1月11日

協議会名：安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名：バリアフリー化設備等整備事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
南安タクシー有限会社	福祉タクシー導入	平成27年度に1台導入。デマンド交通「あづみん」運行にも利用している。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A	事業が計画に位置付けられた目的を達成した	今後も計画的に実施していきたい